

○めざす児童の姿

- ・体づくり運動の動きづくりを通して、「運動ってこんなに簡単にできる」「こんなに簡単に変えられる」「運動がより好きになった」と学びに自信をもっている児童。

○研究の視点より重点とした項目

- ・児童が運動課題に挑戦し、運動を楽しみながら自分を高めていくことができるように、運動課題の解決についての指導法を研究し、運動の苦手な児童への配慮に生かす。
- ・振り返りカードや学習カード等の活用や活動場面でのかかわりを通して、ペア学習やグループ学習による言語活動が充実する場を意図的に設定していく。

1 単元名 めざせ!動きづくりの達人 (体づくり運動)

2 授業づくりの構想

(1) 運動の持つ特性

(単元について)

- 体づくり運動は、「体ほぐしの運動」及び「多様な動きをつくる運動」で構成され、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる運動である。
- 体づくり運動は、多様な動きをつくる運動の行い方を知り、動きを身に付け、様々な基本的な体の動きの幅を広げ、動きの質を高めることができる運動である。
- 運動を楽しく行うために、友達の動きを見たり、話し合ったりしながら自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫し、それを友達に伝える力や態度を身に付けることができる運動である。

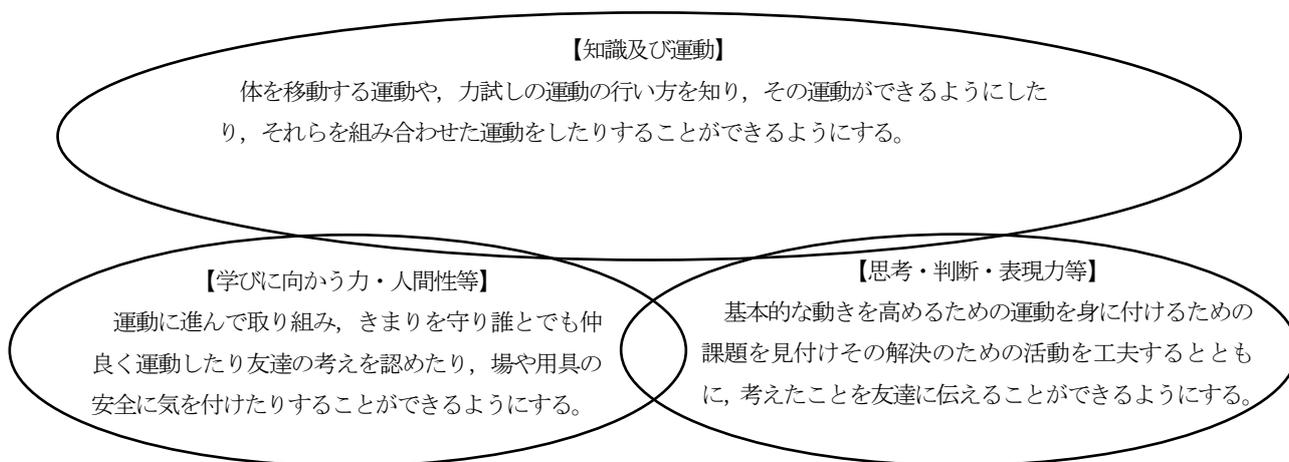
(2) 児童の実態

- 本学年の児童(男子26名、女子22名、計48名)は体を動かすことが好きな児童が多い(約9割)。好きな理由としては、「体を動かすと楽しい」「体を動かすと気持ちがいい」等であった。よくする運動や遊びは、「おにごっこ」「ドッジボール」「サッカー」などであった。決まった相手と決まった動きのある運動や遊びをしている児童が多く、運動に変化を加えることはあまり経験していないと思われる。
- 体育学習中に運動がうまくできないときは、多くの児童が課題解決や友達と学び合うより、繰り返して運動することを選ぶ傾向にある。
- 小型ハードルや走り高跳びの学習では、活動を通して運動のコツを見付ける児童が増えてきた。ただ、個人での学びが多い。

(3) 実施する運動の系統性

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 多様な動きをつくる運動遊び (ア) 体のバランスをとる運動遊び (イ) 体を移動する運動遊び (ウ) 用具を操作する運動遊び (エ) 力試しの運動遊び	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 多様な動きをつくる運動 (ア) 体のバランスをとる運動 (イ) 体を移動する運動 (ウ) 用具を操作する運動 (エ) 力試しの運動 (オ) 基本的な動きを組み合わせる運動	A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 体の動きを高める運動 (ア) 体の柔らかさを高めるための運動 (イ) 巧みな動きを高めるための運動 (ウ) 力強い動きを高めるための運動 (エ) 動きを持続する能力を高めるための運動

(4) 単元の目標



(5) 学びへの働きかけ（指導の意図）

- ・本校の児童は、近年の体力テストの結果、握力の数値が県の平均値や全国の平均値より低い。力を入れたり抜いたりするなど、運動をするときの力の使い方に加え、力を入れる運動の機会を増やすため、力試しの運動を取り上げる。
- ・児童がよく行う運動や遊びの範囲は狭い。運動のレパートリーを増やすことで、運動をより身近に感じられるようにする。また、運動の工夫や組み合わせに取り組むことで、運動は容易にできることも実感させるようにする。
- ・体ほぐしの運動を毎時間の最初にグループで行い、心をリラックスさせ、友達と一緒に多様な動きをつくる運動に取り組みやすい雰囲気をつくるようにする。
- ・教師が提示した基本的な動きから発展させられるよう、友達と動きのコツを伝え合ったり、よい動きを見付けたりする活動を行う。
- ・身に付けた動きから、「距離」「回数」「人数」「コース」などの条件を変えて動きの工夫をする時間を設ける。
- ・課題を解決する活動の中で、伝える必然性をもたせるために、基本の運動に工夫を加えさせる。また、グループごとに考えた動きをペアグループに発表する活動を単元後半に行う。動きを組み合わせる運動は、友達の動きを紹介してみんなで作ってみる時間をとる。
- ・動きを組み合わせる運動を行う時間には、用具の場所や運動を行う場所などを提示し、安全に活動できるようにする。
- ・体育館壁面やホワイトボードに、工夫した動きを写真や絵で掲示する。
- ・情意面の変容や学習の振り返りを共有しやすくするために、全体での振り返りの時間を設ける。ネームプレートをホワイトボードに貼らせ、情意面の様子や立場を明確にし、その理由を全体に伝えるようにする。

(6) 単元の流れ及び評価の計画

		1	2	3	4	5 (本時)	6
主な学習活動		●オリエンテーション ・学習の進め方 ・準備片付けの指導 ●体ほぐしの運動	・体ほぐしの運動 ・学習のねらいや約束				
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">活動①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">○いろいろな運動を行いながら、自分の体力に気付き、運動の質を高めることができる。</div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>☆<u>基本的な動きに取り組む</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を移動する運動 ・力試しの運動 <p>☆<u>条件を変えてやってみる</u></p> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;">活動②</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;">◎より運動の質を高めるために、動きを工夫することができる。(活かす・挑戦する)</div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>☆<u>工夫した動きをグループで考えて動く</u></p> <p>☆<u>考えた動きを発表し、みんなでやってみる。</u></p> </div>		
			学習の振り返り				
評価の計画	知		① ②	① ②	②	②	②
	思			②	①	①	
	主	①	③	③	②	③	④

具体的な評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①運動の行い方や工夫した動き方を理解している。 ②体を移動する運動や力試しの運動やそれらを組み合わせた運動ができる。	①自分の課題に合った場を選んだり、工夫した動きを考えて友達に伝えたりしている。	①運動に進んで取り組み、きまりを守って運動しようとしている。 ②誰とでも仲良く運動したり、友達の考えを認めたりしようとしている。 ③場や用具の安全に気を付けて運動しようとしている。

3 本時の学習（5／6）

（1）目標

- ・人数や距離，回数などの条件を変えて運動することができるようにする。【知識及び運動】
- ・工夫した動きをグループで考えることができるようにする。【思考力，判断力，表現力等】
- ・友達の考えを認めたり尊重し合ったりすることができるようにする。【学びに向かう力，人間性等】

（2）準備

ホワイトボード，ネームプレート，マーカー，消しゴム

掲示物(今までのコツが書いてあるもの，写真，絵，振り返りの様子がわかるもの)

（3）展開

	学習内容・活動	○指導上の留意点・支援 ★評価
3分	1 あいさつ	
5分	2 体ほぐしの運動をする。	○自分や相手の体や心の調子に気付けるようにする。
	グループごとに動きをつくり，もっと運動を楽しもう	
15分	3 グループで動きの工夫を考える ・グループで動き方の工夫を考え，それを別のグループに紹介するという新しい楽しみ方を広げる。 ・○○してから○○する。 ・○○しながら○○する ・2人組で1人を支える ・片足ケンケンずもう ・ジグザグ雑巾引き ・くねくね手押し車 ・障害物手押し車（マット） ・障害物おんぶ（お手玉） ・手押し車じゃんけん（おんぶじゃんけん） ・いろいろサーキット など	○全体に，組み合わせ方や行い方など，工夫するための要素を伝える。 ○距離，回数やコースを変える。 ○人数を増やしたり競争したりする。 ○動きのこつや楽しいところなどを考えるようにする。 ○「楽しい！」と「ちょっと難しい！」の2つを運動づくりの基準とする。 ○これまでの動きの掲示を使い，運動を組み合わせる際の参考にする。 ○活動場所を指定する。 (12グループ・6ペアグループ) ★グループ内で，工夫した動きを考えて友達に伝えている。【思・判・表】（観察・振り返り）
10分	4 ペアのグループの考えた動きをやってみる（6ペアグループ） ・動きのコツや工夫のしかたを伝える。	○他のグループの考えた動きを認め合い，尊重し合えるような声かけをしていく。
5分	5 全体で振り返りをする ・ネームプレートを使い，「わかった！で	○動きの高まりが実感できるような振り返りになるようにする。

	<p>きた！もっとやってみたい！」か「困った…。うまくできなかった…。」のどちらかを選ぶ。その理由を伝える。</p>	<p>○情意面の変容の見取りができるよう、前回との比較を児童にさせる。</p> <p>○ネームプレートを使い、児童が自分の情意とその理由を伝えられるようにする。</p> <p>○児童の発表を聞き、振り返りを書く際の参考にする。</p>
3分	<p>6 振り返りをする。</p> <p>・『わたしたちの体育』の学習のあしあとを使う。</p>	
3分	<p>7 片づけ・あいさつ</p>	